

トワイライト世代 その7

安達 真魚



由布岳（狭霧台より）2025.06

伊勢、鳥羽旅行

今年（2025年）4月、子供を含む数人の家族旅行で伊勢参りに行くことになった。私自身は、前の式年遷宮のころにお参りに行ったこともあって、あまり気が進まなかったが、参加することにした。宿泊は鳥羽のリゾートホテルで、初日は外宮、2日目は内宮、三日目は鳥羽周辺観光の3泊4日の旅程であった。

往復には、新幹線、近鉄を利用し、現地はレンタカーを利用することにして、それらの手配は私にまかされることになった。基本的にネットで予約するのであるが、不慣れな私にとっては、かなりきつい作業だと感じた。新幹線と近鉄を利用していくことになったが、予約するのにそれぞれの鉄道会社に会員登録をする必要があった。JR東海と近鉄では、予約の方法は全く違っている。JR東海は交通系カードなどによるチケットレスが利用できるが、不安なため紙のチケットに交換したくらいだ。余談だが、現在、新幹線各社の複数エリアをまたい

で、旅行するときは、それぞれ別途に申し込み、購入しなければいけない。将来的には、各社のサイトを統合して1回のログインで予約できるように利便性を向上していくとの発表があったようだ。(2025年9月)

鳥羽市は、志摩半島の北東端にあり、西を伊勢市、南を志摩市と接する。北と東は海に面し、伊勢湾と太平洋を分ける位置にある。半島部のほか、神島、答志島、菅島、坂手島の4つの有人離島がある。(Wikipediaより)

鳥羽市の総人口は16,127人(市のHP、令和7年7月末日現在)で、市の人口としては多くない。中世から戦国時代にかけて、九鬼一族などの海賊集が跋扈^{はつこ}していたように想像できる。

産業は農林水産業と観光業が中心で、変化に富んだりアス式海岸の海を利用したカキや真珠の養殖が有名だ。イセエビやアワビ、海苔なども産する。海にはいたるところに、養殖筏らしいものが見える。ミキモト真珠島は、

真珠養殖の発祥地であり、真珠に関する展示や体験が楽しめる観光名所になっている。近くには島も多く、海水浴場も多いようだ。観光船も数多く就航し、マリーン産業が盛んである。鳥羽水族館も有名だ。

観光地だけにホテル、旅館などの宿泊業は多い。食事処も、さすがに海鮮を扱う店が圧倒的に多く、人気店も多かった。

鳥羽はアクセスもいい。鉄道はJRと近鉄がともに鳥羽駅まで乗り入れている。鳥羽駅から先の伊勢志摩サミットの開催で有名な賢島駅までは近鉄の路線のみだ。道路については、伊勢市から鳥羽駅の近くまで自動車専用道路が整備されている。なぜか無料区間になっている。ちなみに、この道路を伊勢から鳥羽方面に走ると、左手の山の上に派手なお城が見えた。後で調べると、「ともいきの国 伊勢忍者キングダム」というテーマパークで、その城は、安土桃山城を模したものらしい。

鳥羽一郎と山川豊は鳥羽市石鏡出身の有名な兄弟歌手だ。全国に鳥羽市の名を広めた功績は大きい。鳥羽展望台には、二人の歌碑が建立されているようだが、そこまでは立ち寄れなかった。

この地域にはこうした海の見える展望台が数多くある。プラタモリで紹介された弘法大師の護摩岩のある青峯山もその一つで、伊勢湾を出入りする船を展望できる。青峯山正福寺は、行基の開基と伝わる古刹で、昔から漁師、海女など海で働く人々の安全を祈願してきた。

自然豊かな鳥羽市に宿泊して、この地に住んでいる人を羨ましいと思うとともに、爽やかな親近感を覚えた。

遊歩道

最近、健康のために散歩（ウォーキング）することが多くなった。ウォーキングは、健康維持、ダイエット、メンタルヘルスの向上、生活習慣病の予防などに、非常

に効果があることが実証されている。

自宅の周辺は、歩道、公園内、遊歩道など、気分によつて、コースを自由に選択できるので、散歩の環境として恵まれている。また、歩く道の両側は植樹されていることが多い。車道には、歩道が付帯され、街路樹が植栽されているのが普通で、街路樹の日影を利用できる道であれば、夏場での日中の散歩も可能だ。さらに、天候不順のときは、買い物をついでに、近くのショッピングモール内を歩くこともできる。

遊歩道は、歩行者が安全、快適に利用できるようにしたもので、メンテナンスを除き、車両などは入れないようになっている。周辺住民を中心に、通勤、通学、散歩などの生活道路として使用できる。千葉ニュータウンの域内には、周到に計画された多くの遊歩道がある。本文では、ローカルで恐縮だが、自身の居住地の近くの遊歩道の例を紹介する。

千葉ニュータウン中央駅の北ロータリーから大塚前公園、小倉台図書館、浦畑新田公園から浦畑公園通りに突き当たるまでの約2kmの比較的長い遊歩道だ。駅からは北北西に真つすぐ向かうが、浦畑新田公園のあたりで左へカーブしていく。駅からイオンまでは、冬場イルミネーションイベント（イルミライINZAI）が行われるところで、遊歩道というより、幅広の歩道だ。遊歩道と呼べるのは、大塚前公園から先になる。

この遊歩道は、木刈地区、小倉台地区から中央駅にアクセスする歩行者のための大動脈だ。利用している住民はかなり多い。自宅がこの遊歩道に面しているので、時間帯にもよるが、通行している人が多いことは自宅の室内からもよくわかる。

地形的には、戸神川の一つの支流の先端と亀成川の一つの支流の先端を結んでいる形になっている。小倉台図書館のやや北側には旧木下街道（注）があった。この街

道は全体に尾根道であるが、このあたりも台地上を通っていた。この遊歩道と旧木下街道と交差していた小倉台図書館のやや北側のあたりが、戸神川水系と亀成川の水系の分水嶺といえる。小倉台図書館前の木刈峠^{びょう}／大塚前遺跡説明板に、近くに「木刈峠遺跡」があったことが表記されている。このエリア全体が手賀沼と印旛沼の峠（とうげ）だったことを裏づけている。ちなみに、「大塚前遺跡」の地名の由来となっている大塚は、この場所から旧木下街道を東へ約200m先の左側にあった。

木刈方面への入口にあたる大塚前公園の東側付近から、この遊歩道の様子を案内してみる。

この遊歩道は全体に幅広であるが、大塚前公園の東側はとくに道幅が広がっている。駅方面に向かって歩行者の通行量が多くなることに対応しているようだ。この公園と接している区間だけ遊歩道としては珍しく中央

分離帯が設けられていることが面白い。分離された

西側の歩道には、視覚障害者用誘導ブロックが設置されていて、終点である浦畑公園通りと交差する地点まで続いている。それにしても、中央分離帯を設置した意図は、よくわからないが、建設当時の企画者または設計者の趣向があつたのだと納得しておきたいと思う。大塚前公園を過ぎるあたりから、坂を少し下り、交差する一般道路をアンダーパスで通過して坂を上り、小倉台図書館に至る。その先から北環状線の近くまでは中央分離帯の代わりに大きめの木が歩道の中央に植樹されている。さらに進むと坂を下って北環状線をアンダーパスで通過する。

アンダーパスを抜けると、南西側が木刈中学校、北東側が浦幡新田公園となる。木刈中学校は全く視界に入らないので、自然の中の遊歩道という雰囲気になる。北東側の浦幡新田公園の池があり、道端にはちよつとしたベンチや東屋が設置されており、たまにバードウォッチングを楽しんでいる人もいる。この公園の池は、亀成川の

支流の谷の先端部の一つで、堰き止めて、調整池や用水地として利用されていると思う。浦幡新田公園は、広場、東屋、公衆トイレなどがあり、地域の人のいやしの場所になっているようだ。この公園の一角には、大きな時計があるのだが、それが日時計であることに気づかない人も多いように思う。自分も最近まで気づかなかった。

浦幡新田公園を過ぎると、左側（南南西側）は木刈の住宅地、右側（北北西側）は木刈小学校だ。木刈小学校は、一段高い敷地にあるので、この遊歩道からは見えない。小学校を過ぎるとすぐに交差する道路の下を通る。その少し先に左横に分岐する遊歩道がある。この遊歩道も距離が長く、そのまま道なりに進むと桜台の十余一公園の池にたどり着く。この遊歩道の木刈7丁目から十余一公園の池までは、戸神川支流の川床を利用している。この流れの水源は、二軒茶屋（現在ウエルシアがある場所）にあつたようだ。

元の遊歩道に戻って、この分岐点から300mくらい進むと、浦幡公園通りに突き当たり、この遊歩道は終わっている。

遊歩道の両側などには、人工的とはいえ、ほとんどが植樹されているので、野鳥も多く、自然を楽しむことができる。真夏でも時間帯によっては、植樹帯の日影を利用して歩くことができる。後で気づいたことだが、前述した視覚障害者用誘導ブロックは、周辺の他の遊歩道にも設置してある。遊歩道には必ず設置することになっているようだ。ローカルな遊歩道ではあるが、歩いてみれば、いろいろ気づくことがあって面白い。

(注) ニュータウン開発前の旧木下街道は、二軒茶屋から泉地区経由で大森に向かい、できる限り亀成川支流と戸神川支流の谷を避けた道筋となっていた。途中、泉地区で大森方面と牧之原方面に分岐し、戦時中は、牧之原にあった印旛陸軍飛行場のアクセス道路としても使用されたので、当時軍用道路と呼ばれた時代があったようだ。いずれにしても、江戸期、このあたりの旧木下街道は印西牧(小金牧の一つ)の域内であった。



印西市木刈の遊歩道(印旛ミヅ) 2025.11

レーザー距離計

長く生きていると、激しい世の中の変化をつくづく感じるものである。街並みも変わるし、生活のスタイルも変わった。変化は技術革新によるものが多い。自分たちが生きてきた時代は、加速度的なスピードで技術革新が

行われてきた時代であったといえるが、将来も変わることもなく進歩し続けていくことは、容易に想像できる。

これまで親しんできたゴルフの世界でも同様だ。以前より乗用カートが採用されているゴルフ場が多くなっている。カートにはGPS距離表示できるナビゲーション用のタブレットが設置され、スコア入力ができて、集計までしてくれるようになっていいる。さらに、このところの夏場の暑さに対応するため、カートに4人分の固定式のファンが設置されたものや、クーラー付きのカーとも現れたらしい。最近ではゴルフプレーヤーも高齢化しているようであるが、乗用カートの導入と改良は、プレーヤーの高齢化対応に大いに寄与していると思う。ただ、高齢者でも健康維持のためにカートに乗らないという人もたまにいるが、それはそれで、個人の価値判断である。

ゴルフの距離計測は、2019年のルール改定で高低差の計測を除き、距離を得るための計測機器などの使

用が許されるようになっていいる。ただ、アマチュアが競技会以外などで使用することは改定以前から行われていたと思う。

ゴルフで使用される距離計は、乗用カートに設置されているもの以外にも、いろいろなタイプがある。測定方法で大きく分けると、GPSを利用するものと、レーザーを利用するものになる。乗用カート設置のものとウォッチタイプ（腕時計型）のものは、GPSを利用している。スマホアプリを使用するものもあるが、これもGPS利用だ。一方、レーザーを利用するものをゴルフレーザー距離計と呼ぶ。

GPSタイプの距離計は、利用するGPS衛星の数によって精度が決まるらしい。乗用カートの計測器での計測は、普及のはじめ頃に比べて、現在の方がより精度が良くなっているように感じるが、少しずつ改良されているのであろう。

しかし、個人で距離計を持つプレーヤーは年々多くな

っている。普及の背景は、全体に値段が安くなっていること、距離確認にカートに戻らなければならないこと、キャディのつかないプレイが多くなっていること、自分の計測距離を重視したい上級者がいることなど、いろいろな理由がある。また、一方で距離計を持たない人も多い。我々のような並みのアマチュアプレーヤーが、いくら精度の高い距離が分かったところで、距離通りには打てないことが多いのは、恥ずかしながらプレーヤー自身がよくわかっているという事情もある。

いずれにしても、個人で距離計を購入する場合、おおむねGPSのウォッチ型か、光学式のレーザー距離計になる。そのなかで、ひと頃GPSのウォッチ型を所有している人が多かったが、最近では光学式のレーザー距離計の方が普及しつつあるように感じる。

レーザー距離計は、ルール改定以前から一定の需要があったと思う。レーザー距離計は精度が高く、プロや上級者は競技会の事前ラウンドで調査として使用していたことは、ゴルフファンとして気が付いている人も多い。

一方で、一般アマチュアプレーヤーは、事前ラウンドの調査などはないのが当たり前であり、プライベートのプレイやコンペなどでも使用できないので、需要が少なかった。また、値段は数万円以上して高価だったので、一般アマチュアプレーヤーとすれば高値の花だったといえる。しかし、ルール改定を機に、状況が変わり、レーザー距離計は、普及を加速させることになった。普及の背景の要因になったことに、レーザー距離計に多くの点で優位性が高くなったことがあげられる。

・多くのメーカーがゴルフ用のレーザー距離計の販売に参入したため、価格競争で全体に値段が下がった。

・精度が向上した

・小型化し、軽量で持ち運びやすくなった。

・測定速度が向上した。

・バッテリー性能が向上した。

・機種により異なるが、その他の各種機能が充実してきた。（高低差測定、ピンサーチ機能、ブレ防止機能、長距離測定、3点計測機能、防水機能の向上、画面視認

性の向上など)

ゴルフクラブ1本を買うより安い価格で、小型で最新機能のレーザー距離計が買えるのであるから、普及して当然かもしれない。

ひと昔前、学校の授業で、巻き尺を使用しないで距離を測定する実習を体験したことがある。意外と計測の原理や機材の扱いが難しく、作業と測定結果の計算にも時間がかかり、さらに測定された値そのものも低精度であったことを記憶している。対象物に照準を当ててボタンを押すだけで測定値が表示される現在のレーザー距離計と比較すると、さすがに隔世の感がある。蛇足だが、その頃の授業はサボってばかりで、成績も悪かった。負け惜しみではあるが、あまり勉強しなくて良かったと思う。

レーザー距離計は、ゴルフに限らず、建築・土木工事、電気工事、DIY、スポーツ、レジャーその他など様々な分野で利用されている。迅速かつ高精度で距離測定が

できるレーザー距離計は、今後も活用分野を広げ、距離測定の効率化と作業品質の向上に貢献していくだろうと思う。

九州旅行

今年(2025年)は、例年になく宿泊付きの家族旅行が多かった。自分としては、年の初め頃から体調が悪く、遠方に出かけて、旅行を楽しむというような状況ではなかった。それでも「体調が悪くても外出した方がいい」とか言われ、留守番するのもしやなので、旅行に同行することにした。今回は、6月の2泊3日の九州旅行で、高千穂峡観光がメインであった。航空券や宿泊の手配をしなくてもよかったので、その意味では楽であった。旅行プランは、初日、熊本空港着、高千穂峡、黒川温泉(泊)、二日目、延岡市北浦(泊)、三日目、宮崎空港発で、それ以外は、いつものようにノープランであった。

熊本空港でレンタカーを借り、宮崎空港で乗り捨てるアバウトな旅程であった。

最初に訪れた高千穂峡は、さすがにメジャーな観光地で、インバウンドもかなり多かった。峡谷は絶景である。遊歩道は整備されているが、アップダウンがあり、かなりの運動量となった。峡谷の谷底に降りて、手漕ぎのボートに乗ったが、コントロールが難しく、ボートの数も多かったのだ、ぶつかってばかりであった。あの有名な真名井の滝には近づけなかったのが残念であった。高千穂峡での昼食は、チキン南蛮をいただいた。多くの店にチキン南蛮の看板が出ていたが、チキン南蛮は宮崎県生まれの食文化であるらしい。

高千穂神社に寄った後、天岩戸神社西本宮に向かった。車で10数分くらい、岩戸川の谷の北側に沿った道を走った。谷川の両側には低山が連なり、谷川に沿って多く棚田が見られた。ゆったり、のんびりしていて、交通量も少ない癒される道路だ。後でGoogleマップを見ると、

「ひむか神話街道」と記載されていた。ちなみに、高千穂神社の近くで、備蓄米の失言で有名になった江藤拓元農水大臣のポスターを見かけたが、このような立派な棚田を見ると、「米を買ったことがない」という失言も、なぜか納得できるような気がした。

天岩戸神社西本宮から、さらに岩戸川に沿って10分くらい歩くと、天安河原（あまのやすかわら）と呼ばれる大洞窟がある。天照大神が天岩戸にお隠れになったとき、困った神々が集まって話し合いをした場所と伝わっている。岩戸川の清流が印象的であった。

その日は、宮崎県の高千穂から熊本県に戻って、黒川温泉に泊まった。黒川温泉は、熊本県阿蘇郡南小国町にある温泉である。阿蘇山の北に位置する全国屈指の人気温泉地らしい。町場から離れた落ち着いた温泉地という雰囲気だ。

二日目は、ホテルを出て、やまなみハイウェイ（大分県道・熊本県道11号別府一の宮線）と九州横断自動車

道を利用して湯布院、別府方面に向かうことにした。途中で、九重夢大吊橋に立ち寄って、「天空の散歩道」365度の大パノラマ（歩道専用として『日本一の高さ』を誇る吊橋で、長さ390m、高さ173m、幅1.5m）を体験した。

湯布院では、由布岳が真正面に見える露天風呂があるという日帰り温泉「由布岳温泉」に行ってみることにした。平日の昼前だったので、他に客がなく、貸切り状態であった。脱衣所などは昔ながらの雰囲気だ。しかし、露天風呂に出てみると、天気が良かったのも幸いして、由布岳の雄大な景色が広がっていた。昼食は、金鱗湖近くの「天井桟敷」というカフェですませた。江戸時代末期の造り酒屋を移築した建物の二階にあり、雰囲気は良く、かなり人気の高いカフェのようだ。金鱗湖の周辺は、平日でも人通りが多く、湯布院でも人気のあるエリアであることが想像できた。

湯布院からは、再度やまなみハイウェイを利用して別

府に向かった。走り出して坂を上り始めると間もなく由布岳が見え始めた。すぐにパーキングエリアがあったので、そこに立ち寄ってみた。そこは狭霧台さぎりだいという展望所で、由布岳が間近に見え、眼下には湯布院の街が一望でき、最高の場所であった。ちょうど時期がよく、由布岳は新緑に映えていた。由布岳は、NHK朝の連続ドラマ『風のハルカ』のオープニングの映像に使われていたと記憶している。テーマソングは、森山直太朗の『風花』で、印象に残る曲であった。そんなことで、自分にとっては、ここで由布岳を眺望できたことは、予想外の感激であった。ちなみに、久住連山や由布岳もそうであるが、九州のこのあたりの山は、樹木が少なく草原のような山々が多いことに気づいた。後で調べたことだが、火山性の土壌のため大木が生えづらいこと、野焼きによる牧畜や防災に役立っていることなどが理由になっているようだ。

別府では、鉄輪温泉かんなわの界限で、再び日帰り温泉に入湯した。温泉好きの同行者がいるので、お付き合いだ。温泉の後、東九州高速自動車道を利用して宿泊地の北浦に向かった。

北浦は、宮崎県延岡市の北部にある漁港である。宿泊したのは、海と山に囲まれた少し高台にある小さな旅館であった。客室からは、北浦の海岸が一望できた。食事は、海鮮宿なので、地元の漁師から直接買い付けた鮮度の高い魚を堪能できた。また、家族ぐるみで対応に、好感をもてた。

三日目は、青島か、鵜戸神宮を参拝して帰るということにした。宮崎県は意外と南北に長く、北浦から高速で行っても時間がかかることが分かった。そこで、近い方の青島に向かうことにした。青島では、鬼の洗濯板の奇形を觀賞し、青島神社を参拝した。帰りは、通りの店で買ったマンガーを立ち食いし、宮崎空港に向かった。

今回はほとんど予備知識なしの旅行であったが、無事に帰って来ることができてよかった。元気で旅行できることが大切だと思う。

音楽再生考

昨今、アナログオーディオが復活し、人気があるようだ。アナログといえば、音源がレコード盤やテープということになるが、スクラッチやテープヒスなどノイズがあり、音質的に不利なものが、なんで今になって流行っているのだろうか。アナログ音源は、音の波形そのものを記録するため、表現に温かみがあり、自然で滑らかだと云われている。また、レコードに針を落とす作業過程の快感であったり、ノイズそのものも聴くことの対象だったりするなど、高音質なデジタル音源に比べて、心地よく感じる人が多いのかもしれない。楽しめるかどうかの評価基準はそれぞれの人によって異なる。

昔からオーディオ・ファンは多い。好きな音楽のジャンルは人それぞれであるが、音楽を高音質で聴きたいと思っている人は多いだろう。しかし、オーディオ・ファンの大半は男性でないかと思っている。突き詰めて考えたことはないが、男性は、メカニクなことを操作したり、揃えたりするのが好きな人が多いからではないだろうか。家族を含めた周囲の女性から、おおよそ推測できる。スマホのスピーカーから直接音を出し、それを楽しんでいる人も多い。オーディオへの志向は、音楽を観賞することの好き嫌いや、好みのジャンルの違いなどとは、別次元のもののように思える。

自分もオーディオには興味があつたが、高価な機器を購入するほどマニアックではない。というより、オーディオに没頭する時間的や経済的な余裕はなかったと言った方がいい。それでも、ビデオデッキがVHSだった頃から、TVで放映される音楽番組などいい音で聴ききたいと思っていた。VHSはテープ幅が広いため、

TVの音をカセットテープなどで録音するより高音質であることが体験上分かつていた。

ハイビジョンTVが普及し始めた頃、AVアンプを購入して、2.1チャンネルのスピーカーをセットし、TVの音を聞いてみた。この時点でビデオデッキはHDDDになっていたが、一応、TVと録画したビデオデッキの音を高音質化することができた。

次は、PCの音源をAVアンプに繋げて、スピーカーセットに音を出すことが課題となった。その頃はすでに、iPodやSonyのウォークマンで、音楽をファイルで聴ける時代でもあった。PCとAVアンプを単にRCA端子オーディオケーブル（ピンプラグ）を繋げただけでは、いい音が出せない。そこで、高音質を実現するためにCREATIVE社のSound Blasterというオーディオインターフェイスを購入した。この装置から、PCへはUSB接続、AVアンプへは角形光デジタルケーブルをそれぞれ接続して、スピーカーセットに音を出した。これで、PCからの高音質出力も完成した。今

ならDAC（オーディオインターフェイスの音声入力などの機能を省いたもの）を利用すればいいだけだが、当時は何の知識もなく、DACが存在していたのかもわからなかった。現在では、ワイヤレスイヤホンにもDACが付属されている状況だ。ちなみに、音楽制作や録音の機能を持つオーディオインターフェイスも、高性能なDACとして利用できる。

その後、音楽制作に取り組むことになったが、PCを利用した一連のセット方法は、前述した方法と基本的に同じである。ただ音楽制作には、オーディオインターフェイスの他に、スピーカーやマイクが必要だ。音楽制作では通常、モニタースピーカーと呼ばれるアンプ内蔵のアクティブスピーカーが使用される。一般のオーディオで使用されるのはパッシブタイプのスピーカーが多いが、それらはアンプが必要だ。モニタースピーカーは、基本性能として解像度の高さを求められるが、一般のオーディオでは、高音質な音楽鑑賞に適した味付け（ニュ

アンス）が求められる。ただ、モニタースピーカーは、低価格でも高性能のものが多く、音楽鑑賞用としても選択肢の一つになると思う。

現在では、アナログオーディオを含めたコアなオーディオ・ファンがいる一方で、スマホの普及でBluetoothを使用して音楽を楽しんでいる人が著しく増えている。Bluetoothであれば、イヤホンでも、スピーカーでもワイヤレスで利用できる。カーオーディオでも、いつの間にかBluetooth利用が当たり前になっている。

ワイヤレスイヤホンは、低価格なものから高価格でハイスペックのものまで各種の機種が販売されている。安くても音質が良く、高機能、高クオリティの機種を幅広く選択できる。ワイヤレスイヤホンで聴く音は、スピーカーとは別次元ではあるが、一般に解像度は高く、手軽さと使い勝手の良さが優れている。ワイヤレスイヤホンを求めるユーザーは選択肢が多く、選ぶのに困ってしまうが、ネット記事などを参考に予算に合った音質の良さ

そんなものを選べば、自分の好みにあった機種がきつと見つかると思う。

自分の場合、散歩のときには、Apple Musicをワイヤレスイヤホンで音楽を聴いている。現在使用している機種は、EarFun Air Pro4とEarFun Air Pro3である。

Pro4の方が上位機種で新しく、少しだけ値段が高く解像度が高いが、音質は、低音が豊かなPro3の方が好みだ。いずれにしても、以前使用していた機種より、格段に音は良くなっている。とくにApple Musicのハイレゾロスレスで録音された曲を聴くと、音の良さを実感できる。

音楽を観賞するとき、ライブを含めてどんな音質で聴くかは非常に大切なことだと思うが、それと同じくらいにどんなジャンルの音楽を聴くかも重要だと思う。最後に、近頃散歩でよく聴いている日本の好きな女性アーティストを、少し古びていて申し訳ないが、いくつか上げておきたい。中島みゆきと松任谷由美はメジャーなアーティストなので除いている。

宇多田ヒカル／坂井泉水／中森明菜／研ナオコ／
安室奈美恵／BENI／JUJU／倉木麻衣／
絢香／ADO



ブーゲンビリア (石垣島 2025.11)